

読

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

響

もつと、  
ロマンティック。

指揮 ローター・ツァグロゼク

Conductor *LOTHAR ZAGROSEK*

円熟期を迎えたドイツを代表する巨匠

ヴァイオリン ルノー・カプソン

Violin *RENAUD CAPUÇON*

鮮やかな音色で魅了する世界的名手

R.シュトラウス：ヴァイオリン協奏曲

二短調 作品8

*R. STRAUSS: Violin Concerto in D minor, op. 8*

ブルックナー：交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」

WAB104(1888年稿／コーストヴェット校訂版)

*BRUCKNER: Symphony No. 4 in E flat major, "Romantic" WAB104 (Version 1888, Edited by B. Korstvedt)*

読売日本交響楽団 第662回 定期演奏会

2026 10.2(金)19:00 サントリーホール S ¥8,800 A ¥7,700 B ~~¥6,600~~ C ~~¥5,500~~

*YNSO Subscription Concert No. 662 / Fri. 2 Oct. 2026, 19:00 / Suntory Hall*

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力：アフラック生命保険株式会社

# 巨匠の格、名手の艶。

ツァグロゼクが築く ブルックナーの神秘  
カプソンが歌う R.シュトラウスの青春

ブルックナーの交響曲演奏は、すべからく信仰告白でなければいけない。それにしてもローター・ツァグロゼクの指揮棒からはなぜ、あれほど神々しい音楽が生まれるのだろうか。昨年聴かせた第5番といい2019年に振った第7番といい、荘厳な響きを通して立ち上がって来たものは、ほとんど神秘的とさえ言える作曲家の魂だった。

ツァグロゼク自身は感情に流されることなく冷静にスコアを読むことを信条とする音楽家だ。1942年に生まれ、第2次世界大戦後の前衛音楽の洗礼を受けて育った巨匠が、交響師や託宣師のように「神懸かり」的に物語を語ることはない。あくまで知的に音楽を分解し、それぞれのパーツを緻密に組み立てていく職人技がツァグロゼクの美の本質であり、その手腕が「神業」的なのだ。

今回取り上げる第4番では、最新の研究成果を反映させた1888年稿／コーストヴェット校訂版が用いられる。テンポの緩急や弱音を強調し、繊細で色彩感豊かなオーケストレーションは、この曲の叙事的な側面をさらに際立てせる。ワーグナーをはじめオペラの指揮で高い評価を得てきたツァグロゼクは、作曲家自身が付けたタイトル「ロマンティック」の名に恥じない音絵巻を聴かせてくれるだろう。

プログラム前半、リヒャルト・シュトラウスのヴァイオリン協奏曲を弾くのは、この曲に強い思い入れを持つルノー・カプソン。18歳のシュトラウスが管弦楽版に先だつピアノ伴奏版でこの曲を初演したのは、ブルックナーの「ロマンティック」初演の翌年1882年だった。40歳離れた2人の大作曲家の思いが込められた「エールの交換」を楽しんでほしい。



## 指揮 ローター・ツァグロゼク

ドイツを代表する巨匠。ライプツィヒ歌劇場の音楽総監督、ベルリン・コンツェルトハウス管の首席指揮者などを歴任。1997年から2006年までシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めた間、同歌劇場は権威ある専門誌「オーブンヴェルト」の年間最優秀歌劇場に5度選ばれ、自身も年間最優秀指揮者に2度選出された。ベルリン・フィル、ウィーン響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ミュンヘン・フィルなどを指揮。ウィーン国立歌劇場、ハンブルク歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、ザルツブルク音楽祭など世界の檯舞台で活躍。17年にフランクフルト歌劇場でクシェネク「独裁者」など3作品を振り、絶賛された。多くの録音でも高い評価を得ている。読響とは16、19、25年に続き、4度目の共演。



## ヴァイオリン ルノー・カプソン

艶やかな音色と完璧なテクニックで世界を魅了する名手。フランスのシャンペリ生まれ。パリ国立高等音楽院に学ぶ。ソリストとして第一線で活躍しており、ハイティンク、バレンボイム、ドホナーニ、ハーディング、ロトらの指揮で、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ボストン響、ロンドン響、シカゴ響、パリ管などと共演を続けている。ザルツブルク音楽祭やルツェルン音楽祭など世界最高峰の音楽祭でも活躍。これまでに数多くのCDをリリースし賞を受賞しており、22年にはドイツ・グラモフォンと契約を発表。13年からエクサン・プロヴァンスのイースター音楽祭、16年からグシュタード冬音楽祭、23年からエヴィアン音楽祭の音楽監督を務めている。読響とは今回が4回目の共演。



読響日本交響楽団 第662回 定期演奏会

2026年10月2日〈金〉19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ~~¥6,600~~ / C ~~¥5,500~~

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>